

# 考古かながわ 第7号

1994年9月1日

## 県内遺跡の1、2について

日本大学文理学部教授

亀井正道

神奈川県内には、学史上著名な遺跡や遺物が意外に多い。また一般にはそれ程知られていないが、重要なものが少なからず存在するので、認識を新たにする意味でそのうちの1、2について触れてみよう。

その一つは中郡大磯町所在の釜口古墳である。大磯付近は、県内でも横穴墓の群集する地域として知られている。その中であって釜口古墳は、山腹傾斜面に営造された封土をもつ古墳である点に注意をひくだけでなく、横穴式石室は截石を使って両側壁を3ないし4段に積み上げ、奥壁と天井は一石で構築する截石切組積の整美な構造を持っている。石室は江戸時代にすでに開口しているので、詳しいことは分らないが、昭和27年の調査の時青銅製匙が出土している。青銅製匙（正しくは佐波理製）は正倉院宝物や法隆寺宝物等に見られ、さらに韓国慶州の雁鴨池出土品にも類例がある。しかし釜口古墳の出土例は、正倉院・法隆寺例より少し形が小さいようであるが、実見の機を得ないので断定できない。

近年隣接の平塚市山王A遺跡でも、佐波理製匙が出土している。大磯・平塚附近は、考古学的資料、文献史料、地名、伝承等から、朝鮮半

島に繋がるものが多い点に注意されているが、最近特にその感を深くする。横穴墓群とは離れて単独で存在し、しかも構築技法を異にする石室や、青銅製匙等を持つ釜口古墳をトータルとして眺めてゆくと、その意味は大きくさらに掘りさげた検討が必要である。

整美な横穴式石室という点では、川崎市宮前区所在の馬絹古墳は東日本でも稀に見る存在と言ってよからう。玄室と2室からなる前室をそなえ、合計3室によって構成される截石切組積の整った横穴式石室は、石造技術の系譜の上からも釜口古墳と同様に注目される存在である。幸にこの古墳は、川崎市にあって継続的に保存の措置がとられているのは喜ばしいことである。さらにここでは白色粘土で円文等が描かれていることが指摘されているが、整備に伴う調査の際瞥見させて頂いたところによると、その他にも馬、靱を示すかと思われる痕跡が見られ、県下における例の少ない装飾古墳としても注意され、今後の研究が期待されるが、紙数もつきたので筆をおくこととしたい。

神奈川県に生れ育った者の1人として、県内の考古学上の論議が一層深められ、又神奈川県考古学会の発展を切に願っている次第である。

# 平成6年度神奈川県考古学会総会報告

平成6年度神奈川県考古学会総会は、去る5月28日、五十数名の会員の出席の中で横浜市開港記念館講堂において、以下の次第によって開催されました。

- ・ 開会
- ・ 会長挨拶
- ・ 議事
- 議長選出

議事1. 平成5年度事業報告の承認

議事2. 平成5年度収支決算報告の承認

〔会計監査報告〕

議事3. 平成6年度事業計画(案)の議決

議事4. 平成6年度予算(案)の議決

議事5. その他

- ・ 閉会

日野一郎会長の挨拶の後、会則第10条3によって、議長に日野一郎氏を選出して議事に入った。

各担当委員による議事の報告と提案説明が行われ、平成5年度の事業報告・収支決算報告の承認と平成6年度の事業計画・予算が議決された。最後に、幹事の寺田兼方氏の挨拶で無事に総会を閉会した。

続いて、本会副会長の小出義治氏を講師として「横須賀市なたぎり遺跡をめぐる諸問題」と題する特別講演が行われた。



特別講演

## 議事1. 平成5年度事業報告

(1) 遺跡調査・研究発表会の開催

「第17回 神奈川県遺跡調査・研究発表会」が平成5年9月19日、秦野市文化会館で約350人が参加して開催された。

(2) 研究誌『考古論叢 神奈河』刊行

会の研究誌『考古論叢 神奈河』第3集が、平成6年5月3日に刊行された。B5版の本文106頁で、700部が印刷された。

(3) 連絡誌『考古かながわ』の刊行

第5号は平成5年8月17日、第6号は平成6年3月31日に刊行された。B5版の8頁仕立てを各700部印刷して、会員全員に送付した。

(4) 入門講座の開催

試行として講演会に変えて、平成6年2月6日川崎市市民ミュージアムにおいて、『横穴墓とは何か』をテーマとして開催された。参加者は185人であった。

(5) 遺跡見学会の開催

平成5年6月27日に『三浦半島の海蝕洞穴を訪ねて』(参加者50名)と、平成6年3月12日に『古都鎌倉を訪ねて』(参加者48名)の見学会が実施された。

(6) 役員会の開催

役員会は、平成5年5月16日(県埋蔵文化財センター)と8月3日、9月9日、平成6年1月14日(以上県政総合センター)の合計4回が開催された。

## 議事2. 平成5年度収支決算報告

平成5年度収支決算報告については、4頁に掲載した。また、〔会計監査報告〕については3頁に掲載した。

### 議事 3 . 平成 6 年度事業計画

#### (1) 遺跡調査・研究発表会の開催

「第18回 神奈川県遺跡調査・研究発表会」を平成 6 年 9 月 25 日(日曜日)に、横浜市開港記念会館で開催を計画している。

発表予定遺跡は、旧石器時代から近世までの11遺跡の他に、特別講演(講師1人)を予定している。

#### (2) 研究誌『考古論叢 神奈河』の刊行

会の研究誌『考古論叢 神奈河』第4集については、これまでと同様にB5版で本文100~150頁前後、発行日は平成7年4月を予定している。700部印刷。掲載論文等5本前後を予定しているが、執筆希望の方は寄稿要項に基づき平成6年12月までに投稿下さい。なお、題名は平成6年8月末日までに、編集委員(担当・村田文夫)までお申し出下さい。

#### (3) 連絡誌『考古かながわ』の刊行

年2回の刊行を予定している。B5版の8頁仕立てを700部印刷し、会員全員に送付する。第1回(通算7号)は、平成6年8月下旬に総会報告や遺跡調査・研究発表会の内容連絡を中心としたものを予定。第2回(通算8号)は、平成7年3月下旬に遺跡見学会・討論会の報告や次回総会の内容連絡を兼ねたものを予定。

#### (4) 遺跡見学会の開催

県下で調査中の遺跡、あるいは指定史跡等で考古資料が実見できる施設等の見学を年2回計画している。第1回は『県指定史跡稲荷前古墳と市が尾横穴墓を訪ねて』を横浜市緑区において平成6年6月下旬の日曜日に計画している。第2回は『国指定史跡小田原城を訪ねて』小田原市内において平成7年2~3月の日曜日に計画している。

#### (5) 討論会の開催

横浜市開港記念会館において平成7年2~3

月に『集落論』をテーマにして、県下の主要遺跡事例発表および講演を予定している。

#### (6) 役員会の開催

役員会は、平成6年5月2日(県政総合センター)、平成6年5月21日(県埋蔵文化財センター)で開催した。以後、随時開催する予定である。

### 議事 4 . 平成 6 年度予算案

平成6年度予算については、5頁に掲載した。

### 議事 5 . その他

鈴木幹事より「横須賀市大塚古墳の保存要望の件」と「役員を選任の件」についての報告がなされた。

#### 会計監査報告

平成5年度の収支決算について、金銭出納簿・証拠書類等を精査し、預金残高と照合した結果、誤りなく適正に処理されていることを確認しました。

平成6年5月9日

監事 伊東 秀吉 印

監事 土井 永好 印

#### ★会費納入のお願い

平成6年度の会費(3000円)納入にご協力お願いいたします。遺跡調査・研究発表会や遺跡見学会の開催時にも受け付けいたしますが、郵便振替などご利用のうえ、お早めに納入ください。郵便振替 00240-9-71208

神奈川県考古学会

## 平成5年度決算報告

〈収入〉 (単位：円)

節	予 算 額	決 算 額	説 明
会 費	1,383,000	1,173,000	4年度会費/3,000×29=87,000、5年度会費/3,000×354=1,062,000、6年度会費/3,000×8=24,000
機 関 誌 等 売 上	1,296,000	1,153,000	発表会要旨・会員/145,000、会員外/207,000、業者/5,200、考古論叢神奈河会員/243,000、会員外/225,400、業者/202,400、考古かながわ/2,400、入門講座横穴墓要旨/111,500、見学会資料代/11,100
雑 収 入	5,591	33,844	会場整理費/500×20=10,000 送料収入/6,780、預金利子/8,924、寄付金/8,140
繰 越 金	910,409	910,409	
合 計	3,595,000	3,270,253	

〈支出〉 (単位：円)

節	予 算 額	決 算 額	説 明
会 議 費	176,000	81,317	会議資料代/2,738、会議費/27,179、会場借上/11,400、講師謝礼/40,000
会 誌 発 行	1,480,000	1,422,016	考古論叢神奈河2印刷/1,160,000、考古かながわ5・6印刷/164,800、発送・連絡費/92,216、謝礼/5,000
普 及 啓 発	200,000	180,638	講師謝礼 / 27,490、会場借上/0、会議費 / 9,540、講演会資料代/143,608
発 表 会	820,000	686,444	発表要旨印刷 / 505,782、会場借上 / 39,850、講師謝礼 / 40,000、設営費/100,812
事 務 局 費	478,000	352,243	賃金/216,000、通信費/101,366、消耗品/34,877
予 備 費	441,000	0	
合 計	3,595,000	2,722,658	

平成5年度収入 (¥3,270,253) - 平成5年度支出 (¥2,722,658) = 収支差額 (¥547,595) は  
次年度へ繰越

## 平成6年度予算

〈収入〉 (単位：円)

節	予 算 額	前年予算額	説 明
会 費	1,383,000	1,383,000	$3,000 \times 461 \text{名} = 1,383,000$
機 関 誌 等 売 上	1,393,000	1,296,000	論叢神奈河売上・会員 / $1,800 \times 220 = 396,000$ 、会員外 / $2,500 \times 160 = 400,000$ 、発表会要旨売上・会員 / $1,000 \times 200 = 200,000$ ・会員外 / $1,300 \times 250 = 325,000$ 、考古かながわ売上・会員外 / $200 \times 10 = 2,000$ 、討論会要旨等 / 70,000
繰 越 金	547,595	910,409	
雑 収 入	1,405	5,591	
合 計	3,325,000	3,595,000	

〈支出〉 (単位：円)

節	予 算 額	前年予算額	説 明
会 議 費	110,000	176,000	会議資料代 / 10,000、会議費 / 47,000、会場借上げ / 13,000、講師謝礼 / 40,000
会 誌 発 行	1,480,000	1,480,000	論叢神奈河 4 印刷 / 1,200,000、連絡誌考古かながわ 7・8 印刷 / 180,000、発送・連絡費 / 100,000
普及・啓発	200,000	200,000	講師謝礼 / 80,000、会場借上げ / 20,000、会議費 / 20,000、討論会印刷費 / 80,000
発 表 会	820,000	820,000	発表要旨印刷 / 600,000、会場借上げ / 60,000、講師謝礼 / 40,000、設営費 / 120,000
事 務 局 費	455,000	478,000	
予 備 費	260,000	441,000	
合 計	3,325,000	3,595,000	

## 第18回神奈川県遺跡調査・研究発表会のお知らせ

1994年度の遺跡調査・研究発表会を下記の要領で開催します。皆様おきそいあわせのうえ、多数ご参加ください。

- ・日時 1994年9月25日(日) 9:30~16:30
- ・場所 横浜市開港記念会館(横浜市中区本町1-6 ☎045-671-3419)
- ・主催 神奈川県考古学会・(財)かながわ考古学財団・後援 神奈川県教育委員会

### 発表会次第

#### I 開会

#### II 発表(午前の部)

1. 大和市月見野遺跡群上野遺跡第5・6地点……………滝澤 亮・小池 聡  
—旧石器時代の良好な石槍文化、細石器が共伴するかどうかで注目される—
2. 第1東海自動車道No.14(三ノ宮・下谷戸)遺跡……………矢戸信悟・立川直之・三瓶裕司  
—縄文時代草創期文化、多量の有舌尖頭器が隆線文土器と共に出土。下層から細石器が出土—
3. 南足柄市塚田遺跡……………安藤文一  
—縄文時代中期の石棒祭址—
4. 平塚市原口遺跡……………長岡文紀・長谷川 厚  
—旧石器から近世までの複合遺跡、107基の弥生時代の方形、円形周溝墓が検出—

#### III 記念講演「地質学からみた考古学標準土層」……………都留文科大学教授 上杉 陽

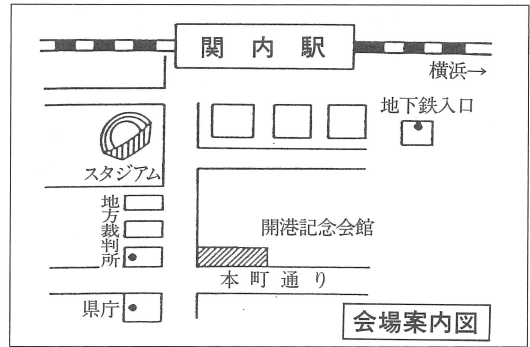
#### IV 発表(午後の部)

5. 横須賀市大塚古墳群……………玉口時雄・大坪宣雄・北爪一行  
—前方後円墳3、円墳3で構成される三浦半島唯一の古墳群—
6. 横浜市大場横穴墓群G・H群……………吉田好孝  
—良好な横穴墓の調査—
7. 川崎市下麻生古墳群……………北原實徳  
—7世紀前半代に構築された切石の石室をもつ3基の円墳—
8. 海老名市国分尼寺北方遺跡(第7・8次調査)……………伊東秀吉・大坪宣雄・荻上由美子・小林克利  
—掘立柱建物址の柱穴から〔法華寺〕と記された墨書土器が出土—
9. 茅ヶ崎市居村B・前ノ田遺跡……………富永富士雄  
—古代の遺構—
10. 鎌倉市若宮大路周辺遺跡群……………佐藤仁彦  
—13世紀代の若宮大路周辺から検出された遺構から数回の土地利用が行なわれたことを推定—
11. 小田原市本町・小田原城三の丸堀の調査……………戸田哲也・小林義典  
—三の丸堀を中心とした三段からなる切石や河原石による石垣遺構と豊富な遺物の出土—

#### V 閉会

## 〈文献交換会〉

当日、文献交換会が行なわれます。県内各地で最近刊行された調査報告書など、考古学関係の文献が持ち寄せられますので、合わせてご案内します。なお、文献交換を希望される団体は、ハガキに代表者名、連絡先、交換文献名を記入のうえ、9月18日までに考古学会事務局までに申し込んでください。



## 遺跡見学会

### —稲荷前古墳群と 市ヶ尾横穴墓群を訪ねて—

永井俊策

6月28日考古学会恒例の上半期遺跡見学会を実施。1時半東急田園都市線の市ヶ尾駅に参集した会員43名は、鈴木重信先生の御案内で、稲荷前古墳群（70年県史跡・82年史跡公園整備）と市ヶ尾横穴墓群（57年県史跡・83年遺跡公園整備）を訪ね、4時過ぎ同駅に帰着。歩行距離3km、全所要2時間半の手頃なコースである。

駅から北西へ1.3km、横浜上麻生道路右側の小高い丘にあるのが稲荷前古墳群。かつては谷本川沖積地に接するこの丘を起点として、北方に向かい標高40m～60前後の丘陵が連続し、その尾根上には400mの至近距離内に、古墳10基（前方後円墳2・前方後方墳1・円墳4・方墳3）と横穴墓9基が存在して古墳群を形成。67年に発見されたが、当時宅地造成中のため、紆余曲折の挙句、69年この丘上の3基のみを切り離して保存、その他はすべて消滅したもの。

道路脇の駐車場から石段を登りつめると、南北方向の平坦部一ぱいに、南端部から17号方墳・16号前方後方墳・15号方墳が並び、その延長線上に存在した残余の古墳群は、削平されて宅地化し、痕跡も残していない。然し関係者の努

力により、この丘が史跡公園となり、墳長36mの前期古墳が原状保存されたのは、次善の結果であったと言えよう。



市ヶ尾横穴墓群

先ほど来た道に戻りながら南東へ1km、市ヶ尾小学校北隣の遺跡公園内にあるのが、市ヶ尾横穴墓群。かつてこの辺は、谷本川沖積地に向かい南北に開く禅当寺谷の、東辺の谷奥部であった処。33年に発見されて以来、56年・82年と3回の調査によって、どんづまりの急な傾斜崖面に、A群12基・B群7基・C群1基と、6C後半から7C後半に亘る横穴墓を確認。C群は消滅したが残る19基を対象に、83年自然環境を極力維持しつつ、行き届いた各種説明板の設置など工夫をこらし、遺跡保存と野外教育との両立を、意欲的に企画したのが、市ヶ尾遺跡公園と言えよう。然し現在19基のうち、羨門部から内部の観察が出来るのは、A群の4基のみであ

り、A-12号墓は埋葬と副葬品の状態が復原され、ガラス越しに覗く仕組みになっているものの、現在は照明装置が切れているため不可能。近くB群の整備が実施されるといいますが、遺跡保存にも、時おりの手直しが必要であろう。

聞けば横浜市歴史博物館（来年1月開館）の

## ＜施設案内＞

### 川崎考古学研究所

川崎考古学研究所は昭和30年代の頃から地道に郷土・川崎の考古学研究を続けてこられた持田春吉氏が昭和54年に私費を投じて設立した施設で、持田氏を中心とする高津図書館友の会郷土史研究部のメンバーによって発掘調査された遺跡の出土遺物が、整然と分類され展示公開されています。

主な展示資料としては、川崎市内でも発見例の少ない旧石器時代の遺跡である黒川東遺跡出土の石器類をはじめ、市内の重要な遺跡から出土した土器・鉄器類などがあります。また、約4000冊にも及ぶ蔵書も納められており、希望者は閲覧することができます。



研究所内での整理

無休・無料（見学希望者は予め連絡が必要、

☎044-854-7621）

交通案内（東急田園都市線「鷺沼駅」下車徒歩18分、川崎市宮前区有馬9-5-8）

古代展示室には、都築郡衙の復元模型を中心に据え、古墳時代のムラの様子も展示される由。期待したいと思う。こんなことを考えながら、市ヶ尾横穴墓群の見学を終え駅へ戻る。700mと至近の距離である。

## ＜催し物＞

### シンポジウム『古代東国の国府と景観』

—— 相模・武蔵を中心として ——

日時：10月16日（日）

会場：國学院大学百周年記念館3F AV教室

時間：9時30分～17時30分

主催：国史学会 後援：神奈川地域史研究会・多摩古代史研究会

## ◆「考古論叢 神奈河」の頒布案内

神奈川県考古学会の発足以来、研究誌「考古論叢 神奈河」は第3集まで刊行されています。各号とも幅広い内容の力作です。お求めいただいて、ご利用ください。

第1集 1800円（会員外2300円）

第2集 1800円（会員外2300円）

第3集 1800円（会員外2500円）

## ◆本誌編集者からのお願い

会員の皆様の貴重なご意見やご要望を募集しております。投稿希望の方は本誌奥付の編集者か事務局にご連絡ください。

### 考古かながわ 第7号

発行 神奈川県考古学会  
発行日 1994年9月1日  
編集者 伊藤 郭、川口徳治朗、小宮恒雄、後藤喜八郎、塚田順正  
事務局 東海大学文学部考古学研究室内  
〒259-12 平塚市北金目1117  
郵便振替 00240-9-71208  
神奈川県考古学会  
印刷所 東邦印刷株式会社